

解答

問一 戦況が悪化するなかで、食べ物と交換するために大切な着物を手放す光子の決心をにぶらせることになりはしないかと危ぶんだから。

問二 実母が亡くなってさびしい思いをひきずっている自分の前で、優しいお母さんの話をする光子の無神経さに軽く腹を立てながら、食糧確保のこともあり、無視するわけにもいかないので、我慢して聞こうという気持ち。

問三 祖母の作ってくれた人形を抱え込むのを見て、イコがここで三人の暮らしになじめずに東京にもどりたいと思っっているのではないかと、残念に思っている。

問四 祖母とも離れ、継母や異母弟との暮らしが心細く気が重くなっていたので、大きな声で歌うことで、毎日の不安や心配から解放されたかったし、また、自分がここにいることをだれかに知ってもらいたかったから。

問一 二度ともどってこない日々や、過ぎてしまえば、永遠にもどってこない一瞬一瞬の時のようなもの。

問二 イ  
問三 日々の生活の中で考えることをやめたり、生きたいように生きることをあきらめたり、ものごとを放棄したりするような、精神の衰退。

問四 1 イ 2 イ 3 ウ 4 イ  
問五 精一杯、今を生きて生命の終わりとしての死を迎えた時に、生きることの目的や意味といった人間が理解することができないようなことも明らかになるといふこと。

三  
良薬は口に苦し。

問一 四  
問一 自分の生活に不満がある中で、波が打ち寄せるようすを見ながら自分と同じようにもがいていることに気づき、あまり無理をするなよと、声をかけたい気持ち。

問二 「そんなにいいことはないよ」と海に嫌味を言ったことで気持ちが軽くなり、自分と同じような海に親しみを感じたから。